

かたの



R6.11月15日号
形埜小学校
校長室だより

「がんばる」ということ

先週の土曜日。晴れ渡る空、さわやかな気温、湿度…。これ以上ないという理想的な条件に恵まれ、令和6年度の形小ロードレースを無事開催することができました。当日は、保護者の皆様の熱い応援の中、参加した全員が完走することができ、最高のロードレースとなりました。子供たちは、10月末から始まったかけ足で練習を重ね、本番に臨み、成果を得ました。中には病気やケガで参加できず、涙をのんだ子もいましたが、その子たちも含め、練習期間を通してここまで頑張りきったことこそが何よりも尊いものだと感じています。

さて、このロードレース、全国的には「マラソン大会」として広く開催されています。「体力をつける」「健康を増進する」など様々な目的がありますが、中でも重要なのが「辛いことに立ち向かい、がんばって乗り越える経験をする」というものです。小学校で行われるマラソンでは、子供一人一人が、がんばれば超えられる目標を自分で設定し、その達成に向けて努力します。時には苦しさにも耐え、我慢することもあります。でも、それらを乗り越え、マラソン大会が終わった後には、「やり抜いた」という達成感や満足感を得ることがことができます。こうした経験は、子供が自立する力を身に付けるうえで大きな役割を果たすものであり、だからこそ、形埜小でもロードレースが毎年行われているのです。

人間は、適切な負荷がかかったときに、それを乗り越えるための力を身に付けようとしています。体力の面だけでなく、勉強、人間関係など、様々な面でそれが行われ、その結果として成長があるのです。ですから、子供たちの学びの場、成長の場である形埜小学校では、子供たちに様々な形で適切な負荷をかけ、子供たちが自発的にがんばる場面を今後も積極的に創り出していきます。令和6年度も後半戦に入りましたが、引き続きご理解とご支援の程よろしくお願いいたします。



11月8日(金)に久々の全校給食を行い、全校で楽しく食事をとることができました。今後の実施については、ただいま検討中です。